

子供と大人が生きる放課後支援とコロナ禍

横浜すばいす代表理事 北村 克久

横浜すばいす出発の原点である放課後支援は、9年目を迎えています。

「子どもを一人にしない。」「子どもにつながる線を一本でも多くする」そんな思いから始まった放課後支援は、様々なプログラムの取り組みが広がり、定着してきています。

<南瀬谷小学校学校運営協議会主催

かがやき計算スキルアップ>

中心にMさんがいて、多くの地域ボランティアがいらっしやるのが特色です。瀬谷区からの予算が出ていて継続しています。ここの特別プログラムは、校長先生授業です。日常は、計算ドリルのくり返しです。

他のキッズクラブでは、子供の実態とアドバイザーの個性を生かした取組で、コグトレ、百人一首、プログラミング、図工、シャボン玉、タブレット学習など多彩です。

<子供が楽しみ、大人も楽しむ>

子供のためにできることをできる範囲でやる。仕事としてやられるのではなく、社会貢献として取り組む。子供の笑顔と少しの感謝が目的の社会貢献です。

<今年度から一般社団法人横浜すばいすが委託を受けて運営しています>

区役所だけでは、手の届かないところを横浜すばいすが委託を受けて、アドバイザー会議などを運営しています。

横浜すばいすは、放課後の在り方を調査研究としても取り組んでいます。瀬谷区の取組は、毎年アンケートを採り、当該年度の振り返りと翌年の見通しの方向性を提案してきました。今年度は、すばいすがアンケートをとりまとめいき、次年度の方向性を提案していきます。

アドバイザーの皆様には、すばいすの一員としてのご協力をお願いします。資料作成費は支給します。

<コロナ禍をテーマにして研修を実施した課題と受講者コメント>

1. 興奮していて話を聞いてくれない時や怒って暴言、暴れてしまう時の対応？
2. 子供からスタッフへの暴力、暴言があった場合、どのように対応するのがよいのでしょうか？
3. 今まで楽しそうに遊んでいたかと思えば、些細なことで急に怒りだし、その怒りがかなり長い時間収まらない子どもが増えてきた。そのような子どもへの対応が知りたい

受講者コメント:示された資料はコロナ前との比較がなく、コロナで子どもの精神状態が「悪化した」と言われても疑問が残った。また、コロナ禍でいろいろなことができなかつたのは本当だが、すすくで毎日キッズを利用するような子たちは保育園出身が多く、コロナ中もそれなりに活動できていたのではと思う。全てを制限されてストレスフルだったのはわくわく利用の子たちだったと思う。

<コロナ禍とスクリーンタイムの増加>

スクリーンタイムの増加が、切れる子供につながっているという一節もあります。



南瀬谷小学校かがやき計算スキルアップ
校長先生特別授業「瀬谷カルタ」